

マクベスのその後

マクベスは、1040年、イングランド北部にあるダラムへの侵攻が失敗して家臣たちの信望を失っていた従兄のダンカン1世を殺害しスコットランド王となります。バンクォーは3年後の1043年にマクベスに殺され、ウェールズに逃れていたフリーアンスもまた4年後の1047年に殺されるのですが、フリーアンスの長男ウォルターは生き残り。魔女の予言通り彼の子孫がスコットランドの王（ステュアート朝）となります。

フリーアンスを殺害したマクベスは1050年にはローマ巡礼の旅に出ます。マクベス統治下のスコットランドはとても安定していたと考えられます。しかし、1054年にスクーンの戦いでダンカン1世の息子、マルカム3世に大敗し、1057年に戦死します。マクベスの死後、王位はマクベスの妻グロッホの連れ子であるルーラッハが継承しますが、即位して間もなく殺害され、マルカム3世（ダンカンの息子）がスコットランド王となります。

魔女の予言により、バンクォーの子孫が王になるには、この後**300年以上**経ってからです。この間、マルカム3世の子孫たちの支配するマサル朝が11代（1058～1286）、ユングリング家、ブルース朝ベイヤル家と続き、ウォルター・ステュアートがスコットランド王ロバート一世の王女（マージョリー・ブルース）と結婚。その子供がスコットランド王ロバート二世になり、ステュアート朝が開かれるのです。以後、ジェイムズ六世がジェイムズ1世としてイングランドの王を兼ねるにいたるまで、八人の国王・女王がスコットランドに誕生します。この**八人**がマクベスの舞台に現れるバンクォーの子孫たちの亡霊です

- 1 ロバート二世（1371-1390 在位期間）
- 2 ロバート三世（1390-1406）
- 3 ジェイムズ一世（1406-1437）
- 4 ジェイムズ二世（1437-1460）
- 5 ジェイムズ三世（1460-1488）
- 6 ジェイムズ四世（1488-1531）
- 7 ジェイムズ五世（1513-1542）
- 8 メアリー一世（1542-1567）

このあとジェイムズ六世（1567-1625）がジェイムズ一世（1603-1625）としてスコットランド・イングランド両王国国王となるのです。マクベスが書かれたのはジェイムズ6世の頃でした。

しかし、存在が知られているステュアート家の最も古い祖先はフランスのブルターニュ地方のブリトン人小貴族フラールド（?-1099年）で、孫のフラールド2世がヘンリー1世（在位1100-1135）に従ってイングランドに移住したとあるので、ステュアート家とバンクォー家との繋がりには明確ではないようです。